

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUYE EYE

Note

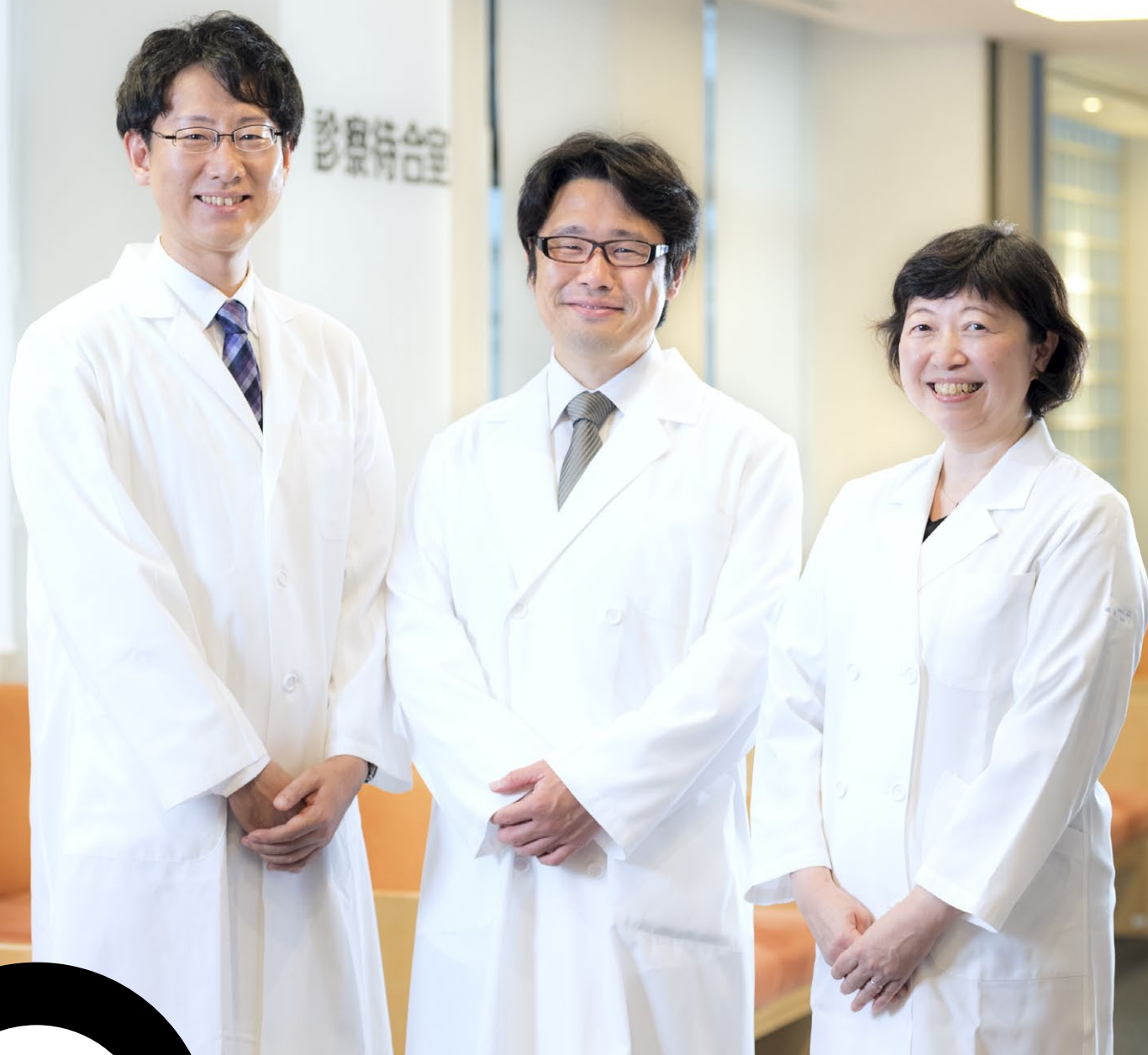
井上眼科 眼のプロフェッショナル

先生の、見つめてきたもの〈vol.06〉 戸塚副院長
しわ取りボトックス注射について / いいもの見つけた！

2022
SUMMER

vol. 121

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

公式フェイスブックで最新情報を発信しています。

一般眼科外来担当医

お茶の水・井上眼科クリニックの一般眼科外来には、多くの患者さまがいらっやいます。日々患者さまと向き合う、担当医をご紹介します。松村医師は一般眼科外来の他にも、西葛西では眼瞼外来も担当。中牟田医師は日々多くの一般眼科の患者さまを診療しています。



中牟田 爽史
Soshi Nakamuta

2015年佐賀大学医学部卒。国立病院機構東京医療センターを経て、2018年お茶の水・井上眼科病院に入局。

多くの患者さまが来られるので、限られた時間の中で適切に治療を行えるように心がけています。患者さまが納得できるよう最後まで責任をもって治療をやりきり、幅広い疾患に対応すべく今後も精進していきます。当院は、専門の先生方が多く、難症例の患者さまにも万全な手術体制を整えています。早期回復に向けて、一緒に頑張りましょう。

大学卒業後、熊本大学病院に入局し、眼科全般の知識、技術を習得しました。井上眼科では各分野、第一人者の先生方にご指導頂きました。特に野田実香先生よりご教示頂いた経験を活かし、眼瞼専門外来も行っております。患者さまに寄り添った医療を心がけています。



松村 理世
Riyo Matsumura

2010年福岡大学医学部卒。熊本大学病院を経て、2017年お茶の水・井上眼科病院に入局。眼科専門医。

後期研修医

当院グループでは、眼科医の育成にも力を入れています。後期研修医は、初期研修を終え、専門医を目指してキャリアを日々積んでいる先生です。次世代を担う後期研修医の先生をご紹介します。



坂田 苑子
Sonoko Sakata

2020年京都府立医科大学卒。東京大学医学部附属病院での初期研修終了。

学生時代にNICU（新生児集中治療管理室）を見学し、命の尊さを実感したことが医師を志すきっかけでした。眼科医として、今後は小児眼科にも携わりたいと考えています。患者さまのお話をよく聞き、お悩みを共有し、適切な治療を通じて皆さまのお役に立ちたいと思っています。趣味はアニメ鑑賞です。

藤井 達也
Tatsuya Fujii

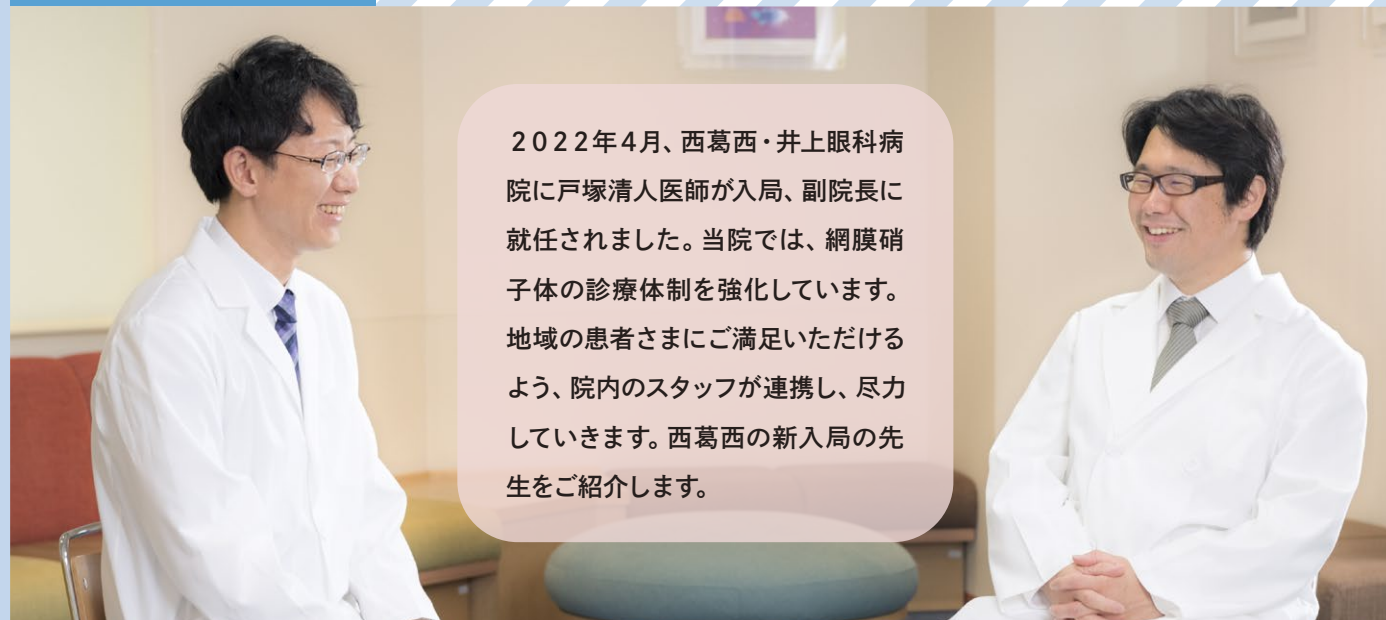
2020年千葉大学医学部卒。千葉大学医学部附属病院での初期研修終了。

医師を目指したきっかけは、高校生の時に読んだ「神様のカルテ」という小説でした。井上眼科には白内障手術のエキスパートの先生が多く、難症例にも対応しています。私も白内障手術を極めるべく、教わったことは自分でも調べ、納得いくようにしています。患者さまにも、自分の言葉でわかりやすく説明することを心がけています。ジムでのトレーニングが息抜きです。



網膜硝子体診療体制を強化

西葛西 新入局医師紹介

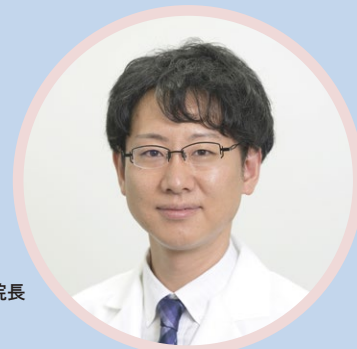


2022年4月、西葛西・井上眼科病院に戸塚清人医師が入局、副院長に就任されました。当院では、網膜硝子体の診療体制を強化しています。地域の患者さまにご満足いただけるよう、院内のスタッフが連携し、尽力していきます。西葛西の新入局の先生をご紹介します。

4月に入局して以来、忙しくも充実した毎日を送っております。専門は網膜硝子体ですが、「全人的な医療」を目指し、外来から手術まで幅広く診療にあたっております。患者さまの眼に関する不具合を解決できるよう、お話をよく聞きながら対処したいと思っています。お困りの症状がありましたら、ぜひご相談ください。

国境なき医師団に憧れて医師を志しました。専門は網膜疾患と白内障、わかりやすい説明と的確な治療がモットーです。前任でいた札幌と比べ、東京の人の多さに驚いております。

患者さまへワンポイントアドバイス：目薬は1〜2滴で充分です。つけすぎないようにしましょう。



戸塚 清人
Kiyohito Totsuka
西葛西・井上眼科病院 副院長

2004年信州大学医学部卒、2018年東京大学医学部大学院修了。2022年西葛西・井上眼科病院に副院長として入局。

戸塚副院長は、地域の基幹病院での豊富な実績と経験を活かし、西葛西・井上眼科病院でもすでに外来、手術でご活躍されております。網膜硝子体を中心に幅広い疾患に対応できるので、患者さまはもちろん、職員からも頼りになる存在です。今後も眼科専門病院として地域医療に貢献できるよう、力を合わせてまいります。（田中 宏樹 / 西葛西・井上眼科病院 院長）



浦木 健彦
Takehiko Uraki

2008年富山大学医学部卒。北海道大学病院入局後に時計台記念病院を経て、2022年西葛西・井上眼科病院に入局。眼科専門医。



井上眼科



「眼」の総合病院として、診療を行う井上眼科病院グループ。眼の疾患は非常に種類が多いこともあり、当院グループには、専門知識を持った「眼のプロフェッショナル」の医師が多く在籍しています。今回はその中から、新入局の医師や、多くの患者さまを診察する医師をご紹介します。

涙器外来 専門医

当院グループでは、症状に合った適切な治療を行うため、眼の疾患ごとの専門医が在籍しています。担当する専門外来のひとつとして涙器外来を開設しています。近年では、涙に関するお悩みや疾患で涙器外来を受診される方が増えています。

清水 恒輔
Kosuke Shimizu

札幌・井上眼科クリニック 院長

2007年旭川医科大学卒。同大学の医局に所属後、北海道各地の病院で眼科医療に携わる。2019年、札幌・井上眼科クリニック院長に就任。



涙道の病気は、涙の通り道に実際に水を流す検査（通水検査）や、内視鏡検査をしない限り診断が付きません。もし涙目でお困りの方で、専門的な検査の希望があればご相談ください！（ちなみに詰まるのは「涙腺」ではなく「涙道」です。）

方倉 聖基
Seiki Katakura
井上眼科病院 副院長

2003年広島大学医学部卒。広島大学病院等を経て、2011年井上眼科病院入局。2019年、井上眼科病院・副院長に就任。





今年4月に着任した
西葛西・井上眼科病院の戸塚副院長。
これまでのキャリアや理想とする
医療への思いなどお話を伺いました。

戸塚 清人

Kiyohito Totsuka

西葛西・井上眼科病院 副院長

2004年信州大学医学部卒、

2018年東京大学医学部大学院修了。

2022年西葛西・井上眼科病院に副院長として入局。

信州・松本育ち。

医療が身近にあった家庭環境

私は生まれは東京ですが、親の仕事の都合で長野県の松本市で育ちました。将来はサッカー選手になれたらいいなと思いつつなんとなく医学に憧れていた、そんな少年でした。というのも我が家は曾祖父の代からの医師家系。家では眼科医だった両親の会話をよく耳にしていたので、医師という職業が身近だったんですね。医師は人の役に立つやりがいある仕事だという両親の言葉が強く心に残っていたので、高校生の時に医学部に進むと決めました。専門を眼科と決めたのも自然の成り行きで、研修で眼科をまわったときが一番楽しかったからです。

医師としての礎を築いた

千葉の病院での経験

医師になったばかりの駆け出しの頃、千葉の旭中央病院という地域の基幹病院に勤務したときのことです。新人医師として多忙な外来診療をこなしながら、上司にあたる医師から厳しい指導を受けていました。先輩医師のハイレベルな技術になかなかついていけずに、悩んだ時期もありました。実際、最初に学んだ白内障の手術は予想以上に苦戦しましたね。基礎をしっかりと叩き込まれていたため、その後は順調にさまざまな手術に対応できるようになりました。苦難を乗り越えられたのは同じような境遇で共に寮生活をしていた同世代の仲間のおかげかもしれません。病院に隣接していた寮は合宿所みたいに賑やかで楽しかったですよ。

私の専門は網膜硝子体です。難易度が高く緊急疾患も多い分野ですが、当時の上司の職人技を直近でみて感銘を受けました。恩師でもあるその先生とは今でも連絡をとっています。当時は教わる一方でしたが、

今では討論することもあります。自分の成長を感じる瞬間ですね(笑)

充実の医療体制のもと、

包括的、全人的に患者さまの眼を診ていきたい

その後いくつかの病院を経て、約3ヶ月前に当院に着任しました。西葛西・井上眼科病院は専門のスタッフによるサポートが充実しているので、医療行為だけに集中できるのが大変ありがたいです。こちらでも網膜硝子体を中心に、眼全体を診察したいですね。包括的に疾患を把握することが患者さまの負担の軽減につながりますから。同時に、現状を客観的に判断し、他の医師と的確に連携することも大切だと考えています。

私の好きな漫画の中に「納得はすべてに優先する」というセリフがあります。納得していれば辛くても大変でもやっていけるという意味です。私はいま、患者さまも私も納得できる医療をご提供するための下地をつくっている段階だと思っています。これからがとても楽しみです。

眼の違和感一つでもきちんと解決していくために、患者さまの言葉にしっかりと耳を傾け、双方が納得のいく丁寧な診察を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



漫画「スラムダンク」の影響で、大学からバスケットボール部に入り、今でも趣味でやっています。好きな選手はNBAのアキーム・オラジュワンです。

GROUP NEWS TOPICS

お茶の水・井上眼科クリニックでは、
年齢と共に気になる眉間や目尻の「表情じわ」を目立ちにくくする
「しわ取りボトックス注射」を行っています。

しわ取りボトックス
注射について

年齢と共に気になる「表情じわ」に効果的

お茶の水・井上眼科クリニックでは、年齢と共に気になる眉間や目尻の「表情じわ」を目立ちにくくする「しわ取りボトックス注射」を行っています。白内障の手術を受けた患者さまから、「よく見えるようになったら、目元のしわが気になる」とのお声をいただき、患者さまのお悩みを少しでも解消するためにスタートした治療です。当院では、世界91カ国以上での治療実績があり、厚生労働省から認可を受けた、アラガン社の「ボトックスビスタ®」を使用しています。



▲詳細はこちら

表情じわが気になる方はもちろん、若い方でも治療が早いということはありません。予防治療としての効果があり、実際に私も行っています。マスク生活で、目元の印象に注目が集まるようになりました。皆さまがより良い印象を与えるお手伝いが出来ればと思っています。

お茶の水・井上眼科クリニック
医師
光畑みずほ



INFORMATION

お茶の水 「網膜レーザー外来」を開設

2022年4月よりお茶の水・井上眼科クリニックにて「網膜レーザー外来」を開設しました。東京大学 前准教授の加藤聡医師が担当いたします。〈診療日：第2、4火曜日 午前〉

※こちらの外来は予約制となっています。

札幌 札幌・井上眼科クリニックにてWebセミナーを開催しました

2022年3月に公開セミナー「50代から知りたい! 緑内障・白内障について」を会場とWebの同時開催で行いました。Webにてご質問、ご意見を募集したところ、たくさんのお問い合わせをいただき、清水院長が丁寧に回答いたしました。右記よりご覧ください。



▲詳細はこちら



いいもの「見」つけた!

先生たちが最近見つけた、身近な“いいもの”をご紹介します!

北海道日本ハムファイターズの試合をよく「見」にいきます。東京に来てからは、ほぼ毎試合radikoで聞いています。新庄監督になって、これから実績を積んでいく若い選手が多くなりましたが、ビッグボスの指導のもと、「目」の色を変えて奮闘しています。北海道日本ハムに負けずに、私も成長していきたいですね。

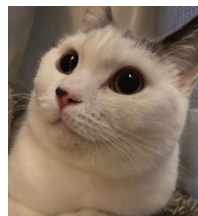


浦木 健彦
Takehiko Uraki

西葛西・井上眼科病院
医師



大きな「目」が特徴の我が家の猫です。猫の「目」は動体視力や暗視能力には優れていますが、一般的な視力は人間の10分の1程度とされています。猫は何もない空間を「見」つめていることがあります。猫の「目」には何が「見」えているのでしょうか?



高橋 篤史
Atsushi Takahashi

大宮・井上眼科クリニック
看護部 次長



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUE EYE HOSPITAL GROUP

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-3 新お茶の水ビルディング 18 階
<https://www.inouye-eye.or.jp/>

【広報誌に関するお問合せ】 Tel. 03-5244-5524

井上眼科だより vol.121 | 井上眼科病院グループ広報誌 2022年7月1日発行 | 編集・発行/井上眼科病院 経営企画部 広報課

今月の表紙

左から西葛西・井上眼科病院の戸塚副院長、田中院長、國松副院長 | サッカー好きの田中院長と戸塚副院長。撮影中もサッカーのことで話が弾んでいました。